

大昔の栃木市には海があった!?

移動から定住へ —ムラのはじまり

縄文時代、人々はそれまでの狩りをしながら移動する生活から、長い期間同じところで生活できる家をつくり、みんなで集まって生活するようになりました。これが「ムラ」のはじまりです。



出土品から見える 縄文時代の豊かな暮らし

縄文時代の人々は生き物を狩ったり木の実をとったりして生活していましたが、近年、その暮らしは私たちが想像するより豊かだったことがわかってきています。旧(古い)渡良瀬川左岸にある藤岡神社遺跡では、犬やイノシシなどの動物形土製品や、女の人が立てひざをした姿勢の土偶などが出土しています。犬は狩りに使い、イノシシや鳥は狩りでとる動物でした。縄文時代の人々は土偶で食物に感謝の気持ちを表していました。縄文時代の人々が多様な文化や思想をもっていたことがうかがえる貴重な資料です。



▲藤岡地域周辺の貝塚分布(縄文時代前期)
(『藤岡町史 通史編 前編』より(一部加工))

栃木市の縄文遺跡から 貝が出土

栃木市内にも縄文時代の「ムラ」のあと(遺跡)がいくつか残っています。そのうちの1つが藤岡地域にある「篠山貝塚」です。この貝塚からは住居あとや食料にしたシカやイノシシなどの動物の骨、ヤマトシジミの貝殻、骨で作った針、魚を刺してとる道具などが出土しています。

なぜ海がない栃木市の遺跡から貝が出土するのでしょうか。実は縄文時代は、長く続いた氷河期が終わり、気温が上がってきた時期でした。そのため北極や南極をおおっていた氷がとけ出し、海水面が上昇、日本全国で海岸線が内陸のおく深くまで入りこむ現象が起きていました。縄文時代の栃木市も、藤岡地域の近くまで海水が入りこんでいたため、陸だけでなく海からも食料を集めて生活していたと考えられています。



▲藤岡神社遺跡出土 動物形土製品



▲藤岡神社遺跡出土 土偶

...column 教えて!とち介...



縄文時代以前の栃木市に 人は住んでいたの?

市内では縄文時代以前に人が生活していたのでしょうか? 星野町で出土した石器は、4万年以上前のものかどうか学者の間で論争がおきました。また平井町の向山遺跡では、縄文時代以前から石材を採取していたあとが確認されています。今後の調査や研究によって、縄文時代より前の様子がわかるかもしれませんね。

▼星野遺跡で見つかった石核※
※石の道具を作った後に残った石

